



高校生が地域を歩いて作った「てくてくマップ・カード」(R7年度)



地域の魅力を再発見「地域ビジネスキャンプ」(R7年度)



興味関心を共に探る「じゆうく。」の学び(R6年度)



「未来塾」の卒業生は、今、町の

担い手へ。



四万十公社勤務 谷悠斗さん(東大奈路)

自分の意志で選んだ、地元での人生

県外進学を考えていた自分を変えたのは、「じゆうく。」での学びでした。周りに流されず物事を深く考え、想いを言葉にする力を得たことで、スタッフに「地元に残って町を盛り上げたい」と本心を伝えられ、今の自分があります。

現在は四万十ケーブルテレビの職員として、地域の情報を守り、街おこし応援団としても活動中。同級生が帰りたくなる町を目指して、これからも町を盛り上げていきます。

町役場勤務 森田 桃花さん(七里)

やりたいことを、我慢しない

高校時代、「じゆうく。」で多様な経験を持つ大人たちと触れ合い、それまでの自分にはなかった新しい視点を持つことができました。進路に悩んだ際、塾長は私の「やりたいこと」を一番に考え、「自分の気持ちを我慢せんように」と背中を押してくれました。その言葉を糧に、現在は町職員として、地域の方に寄り添う日々です。塾で培った積極性を活かし、町民の皆さんに信頼される職員を目指します。

高知大学4回生 林巧人さん(大正)

「挑戦にマイナスはない」を胸に

「じゆうく。」でのカナダ研修や入試対策が、今の私の原点です。面接が苦手でしたが、スタッフの熱心な指導で自信を持って、本番に挑めました。

県外就職も考えましたが、心許せる地元の安心感に惹かれ、町内企業への就職を決めました。当時教わった、「挑戦にマイナス要素はない」という言葉を胸に、海外研修で培った積極性を活かし、社会人として大好きな地元へ貢献していきたいです。

変わらぬ想い、新たな体制で
人材育成推進センターは今年度ももって解散し、その役割を各専門部署へ引き継ぎます。十年にわたる人づくりの種は、着実に芽吹き、芽吹いた力が地域に刺激を与え、誰もが挑戦しやすい町へと変わりつつあります。
今回の組織改編は終わりではありません。活動を持続可能な体制へ移すための新たな歩です。
時代の変化と共に形は変わっても、未来を切り開く「人づくり」への姿勢は変わることはありません。地域に根差した取り組みを今後もつないでいくため、町は今、新しいステージへと踏み出します。

各課が連携し、人づくりを継承

各塾の専門性をより活かすため、未来塾は学校教育課へ、産業振興塾は農林水産課へ移行。四万十塾の起業・創業支援の取り組みはにぎわい創出課、学びへの関心向上、交流の場づくりについては生涯学習課へと、それぞれの役割を継承します。
今後は各部署が密に連携し、取り組みをより身近なものとして、着実に歩みを進めていきます。

地域づくりは、人づくりから。

町職員時代、私は「地域はそこに生きる『人』によって作られる」と学びました。互いに切磋琢磨し、いくつになっても成長し合える環境こそが町の基盤です。この十年間、三つの塾を柱に人づくりという種をまき、今、若者の地元就職や起業という形で芽吹き始めたことを、何よりうれしく思います。

この変化は、人づくりが特別な活動から「町の日常」へと定着した証です。組織の形は変わりますが、町の中に根付いたこの前向きな動きは止まることはありません。

誰もが自分らしく一歩を踏み出せ、移住者も定住できるような地域であり続けることを願っています。一度きりの人生、郷土への愛着を胸に、出会いとつながりを大切に挑み続けていきたい。



「みんなの挑戦がうれしい」と語る
四万十町長 中尾 博憲

「四万十塾」の参加者は、今、町の

挑戦者へ。



カフェ開業準備中 遠藤 亜希子さん(北琴平町)

不安を解消し、夢の「カフェ」開業へ

コーヒーと輸入食品の会社に長年勤めた経験を活かし、カフェ「ねこのねどこ」の開業を決めました。2年前に「夢に挑戦したい」と退職。いざ開業となると地域に馴染めるか不安も。そんな時、四万十塾の「40010地域ビジネスカフェ」に参加し、町内の先輩方から地域に溶け込むコツなど、生の声が聞けたことで不安が解消。店名には、「猫も安心して寝られるような場所」という願いを込め、学園通りで誰もがふらっと立ち寄りホッとできる場所を目指します。

親子交流の場 親子カフェ開業 芝 ゆみさん(大正)

お母さんの想いに応える居場所を

長年保育士として歩み中で、退職後も地域に根差した保育がしたいという想いがありました。一人の元保育士に何が出来るか悩みましたが、「四万十チャレンジワード」への挑戦が転機に。協力してくれたお母さんたちの想いに応えたいと、「大賞」受賞の半年後には交流の場「おやこのんびりカフェ」を開業。今後は子どもの成長に大切な「絵を聴く」体験活動なども通し、仲間力を借りながら、子育てが楽しいと思える環境を作っていきます。

三島キャンプ場 体験メニュー開業 川口 加代子さん(昭和)

好きを活かして、地域のつなぎ役に

一枚のチラシをきっかけに四万十塾の講座に参加してもう8年。退職後に始めた英語も、講座での学びを機に「イングリッシュカフェ」への活動へと広がりました。現在は三島キャンプ場の運営の一員として、大好きなシフォンケーキやジャム作りを活かした体験を届けています。交流を楽しみながら、地域の魅力を伝え、人と人をつないでいくことが私の役割だと気付きました。好きなことで誰かの役に立てたら、それが一番うれしいです。

誰かの挑戦が、町の新しいおもしろさへ。

人づくりに終わりはなく、正解もありません。

同じ講座で学んでも、何を感じ、どう形にするかは人それぞれです。その多様な個性が、町の新しい魅力や可能性を生み出す源です。正解がないからおもしろい。

挑戦を楽しむ人が集まる「この町の未来は、きっと楽しい」。そう信じて、私たちの歩みはこれからも続きます。

お問い合わせ先 / 人材育成推進センター 22-3163